

第 18 回いわき都市圏総合都市交通推進協議会

1 日時 令和 7 年 9 月 4 日(木) 10 時 30 分～11 時 30 分

2 場所 いわき市文化センター 3 階 大会議室

3 参加者

No	区 分	所 属	委員	出欠	備考
1	学識経験者	独立行政法人国立高等専門学校機構 福島工業高等専門学校 都市システム工学科 教授	齊藤 充弘	出席	○会長
2	一般旅客自動車 運送事業者等	公益社団法人 福島県バス協会 専務理事	穴戸 紳一郎	出席	
3		一般社団法人 福島県タクシー協会 いわき支部 支部長	吉田 憲一	出席	
4	貨物自動車運送事業者 が組織する団体	公益社団法人 福島県トラック協会 いわき支部 支部長	松尾 活秀	欠席	
5	一般乗合旅客自動車 運送事業者	新常磐交通株式会社 常務取締役	門馬 誠	出席	
6	高速道路管理者	東日本高速道路株式会社東北支社 いわき管理事務所 副所長	加藤 文啓	欠席	
7	鉄道事業者	東日本旅客鉄道株式会社水戸支社 企画総務部 経営戦略ユニット ユニットリーダー	藤澤 充哲	出席	
8	商工業	いわき商工会議所 議員	山崎 建見	欠席	
9	公共交通機関 利用者代表	いわき市行政嘱託員連合協議会 副会長	鷺 一雄	出席	
10		福島県高等学校PTA連合会いわき地区 会長	杉山 広美	出席	
11		いわき市社会福祉協議会 副会長	越智 春子	出席	
12	一般旅客自動車運送事業者の 事業用自動車の運転者が組織 する団体	常磐交通労働組合 執行委員長（バス運転手代表）	中丸 一三	出席	
13	国	国土交通省東北地方整備局 磐城国道事務所 副所長	佐々木 文克	欠席	
14		国土交通省東北地方整備局 小名浜港湾事務所 副所長	伊藤 毅志	出席	
15		国土交通省東北運輸局福島運輸支局 首席運輸企画専門官	日脇 渚彩	出席	
16		福島県いわき地方振興局 次長兼企画商工部長	加藤 宏明	出席	
17	県	福島県いわき建設事務所 主幹兼企画管理部長	佐藤 勇雄	出席	
18		福島県小名浜港湾建設事務所 次長	西山 剛	出席	
19	公安委員会	福島県いわき中央警察署 交通第一課長	田中 秀幸	出席	
20		福島県いわき東警察署 交通課長	大河原 隆司	出席	
21		福島県いわき南警察署 交通課長	鎌田 本昭	欠席	
22	市	いわき市総合政策部 部長	津田 一浩	出席	
23		いわき市観光文化スポーツ部 部長	深谷 健司	出席	
24		いわき市土木部 部長	市毛 芳幸	出席	
25		いわき市都市建設部 部長	紺野 克彦	出席	○副会長

アドバイザー

1	学識経験者	独立行政法人国立高等専門学校機構 福島工業高等専門学校 特命教授	芥川 一則	出席	
2	学識経験者	福島大学 経済経営学類 教授	吉田 樹	欠席	

4 配布資料

次第

席次

委員名簿

議案書

資料 1：会議資料

5 概要

(1) 開会

(2) 会長挨拶

(3) 協議事項

① 小川地区における定額タクシーの実証事業について

② 小名浜地区における域内交通の実証事業について

③ 常磐地区における域内交通の実証事業について

(4) 報告事項

① 久之浜・大久、四倉地区における定額タクシーの社会実装について

② いわき市運賃協議会の設置について

(5) その他

(6) 閉会

6 議事内容

(3) 協議事項

① 小川地区における定額タクシーの実証事業について

○会長

- ・小川地区における定額タクシーの実証事業について、委員の皆様からご質問やご意見を頂きたい。

○委員 新常磐交通㈱

- ・小川地区では、市の補助系統の路線バスである高崎線を運行している。今回の定額タクシーの実証運行により、路線バスへの接続も改善し活性化も見込めるとのことだが、バス利用者がどれくらい増えると想定しているのか。

○事務局

- ・バス利用者がどの程度増えるのかは、今回の実証の中で確認をしていきたい。実証にあたっては、地域住民に対し、公共交通機関への乗り換えによる利用も併せて周知していきたい。

○委員 福島県バス協会

- ・利用対象者が 15 歳以上と記載してあるが、高校生以上を対象としたのは、どのような意図はあるのか。

○事務局

- ・小中学生の遠距離の通学に対しては、市で別に補助をしているため、二重補助とならないよう 15 歳の中でも高校生以上としている。

○委員 福島運輸支局

- ・事前予約は不要と記載があるが、流しのタクシーを捕まえて利用することはできるのか。

○事務局

- ・運行事業者と協議を進めてきたが、小川地区は営業所からは少し距離があり、流しで走っていることはほとんどないという状況にあるため、利用する際には都度、運行事業者へ電話してタクシーを呼んでもらうこととしている。

○委員 福島運輸支局

- ・他自治体では、デマンド交通などの予約がいっぱいで利用できないという話を聞くこともあるので、使いたい人が使えるサービスとなるよう意識してほしい。

○事務局

- ・今回の実証で、地区でどれくらいの需要があるのかを検証していきたい。その後、社会実装する際は、検証の結果に応じて制度の見直しを図りたい。

○会長

- ・議案第 1 号「小川地区における定額タクシーの実証事業」について、承認することに異議はないか。

→異議なし

② 小名浜地区における域内交通の実証事業について

③ 常磐地区における域内交通の実証事業について

○会長

- ・両地区における域内交通の実証事業について、委員の皆様からご質問やご意見を頂きたい。

○委員 新常磐交通㈱

- ・乗合事業として路線バスを運行する新常磐交通としては、今回の実証を一般乗合旅客自動車運送事業で行うことは、良い意味でも悪い意味でも影響が生じるものとする。特に、小名浜地区は利便増進実施計画の中でも要となる路線と競合関係となる可能性がある。既存の路線バスの需要増につながるような事業の展開や周知をお願いしたい。

○事務局

- ・事務局としても地域の域内移動の充実という目的とともに、既存の路線バス幹線系統への接続も念頭に置いて事業を構築している。それを市民の皆様には伝わるよう周知をしていくが、行政だけでは足りない部分もあると思われるので、バス事業者と連携して進めていきたい。

○委員 福島県タクシー協会いわき支部

- ・いわき市ではこれまでも定時定路線型やデマンド型の実証をやってきたが、多くの方に利用されたものはなかった。地域の方々は、いろいろな意見を出してくれるが、いざ運行すると乗ってもらえない。
- ・市内他地区で行っている定額タクシーは、本当に困っている人にだけ利用してもらい、交通事業者も仕事が増え、行政も利用があった分だけ補助をするというものである。定時定路線型やデマンド型は、利用がなくても固定費がかかるものとなる。
実証事業を行うことは、データも取れるので反対はしないが、終了後に検証を行い、あまり良い結果でなかった場合には、ほかのモードに切り替えるなどの検討なども行ってほしい。

○委員 福島運輸支局

- ・予約の方法などはこれから検討するということだが、他自治体の協議会に参加した際に年配の委員の方から、今は年配の方もスマホを利用しているのでスマホを使った取組みを行ってほしいとの声があったので参考にしてほしい。

○会長

- ・議案第2号「小名浜地区における域内交通の実証事業」について、承認することに異議はないか。
→異議なし
- ・議案第3号「常磐地区における域内交通の実証事業」について、承認することに異議はないか。
→異議なし

(4) 報告事項

① 四倉地区における定額タクシーの社会実装について

○会長

- ・ご質問などがあればお願いしたい。

○委員 新常磐交通㈱

- ・久之浜・大久、四倉地区の定額タクシーは、路線バスいわき-富岡線に結節点などを設けて活

性化を図るという考えはお持ちなのか。

○事務局

- ・いわき-富岡線は、地域間幹線であり、市にとっても重要な路線であると認識している。一方で運行便数が少ないという課題がある。それを補完する移動手段として定額タクシーを導入する。今後は、路線バスへの接続も併せて地区へ周知していきたい。

○会長

- ・事務局については、10月からの社会実装に向けて、関係各所との手続きを進めるようお願いしたい。

② いわき市運賃協議会の設置について

○委員 福島運輸支局

- ・バス無料デーの実施については、自家用車への依存度が高い中で、バスに乗ったことない人に興味を持ってもらい、バスの良いところを知ってもらう機会としてもらいたい。バスロケーションシステムなど便利なものが導入されてきているが、認知度が低いという現状があるので、バス無料デーのなかでうまく周知をしていただきたい。

○委員 新常磐交通㈱

- ・昨年、福島県で実施したバス無料デーは、無料ということもあって長距離路線の利用が多かった。今回の市でのバス無料デーもバスの潜在的な需要の把握とバス事業のPRとなるので、新常磐交通としても協力していきたい。

○委員 常磐交通労働組合

- ・昨年のバス無料デーは、運転手側としても大変利用が多かったと実感している。今回の小川地区のパークアンドライドやまちなかの域内交通は、新常磐交通の路線バスの利用促進やバイパスの渋滞緩和にもつながってくると思うので委員の皆様のご協力をお願いしたい。

○委員 福島県バス協会

- ・昨年度の福島県のバス無料デーでは、県のバス協会でもテレビや新聞、ラジオなど考えられるもの全部で周知を行ったつもりだが、実施後のアンケートでは、PRが足りないという結果が多かった。この結果を踏まえ、今回は、より多くの市民に届く周知を考えていただきたい。

○会長

- ・今、話のあった効果的な周知方法について、皆様から良いアイデアがあれば随時お寄せいただきたい。

(5) その他

○委員 東日本旅客鉄道㈱ 水戸支所

- ・JR線路の脇には多くの草木が生えているが、近年手入れがされなくなっている。それらが風や雪で線路内に倒れ列車が止まるという事案が多く発生している。これらの対応として、各沿線自治体の皆様へ線路脇の草木の手入れの周知についてお願いしているところである。

以上